

認知症サポーター養成講座標準教材

認知症を学び 地域で支えよう



身近な福祉の相談窓口



あんしんすこやかセンター

(地域包括支援センター)



「あんしんすこやかセンター」

(地域包括支援センター)

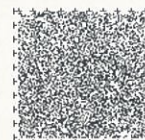
- 世田谷区が27ヶ所に設置している高齢者のための相談窓口です。また、障害のある方や子育て中の方などのご相談もお受けしています。
- 窓口では社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等の専門職員がご相談に応じます。
- 相談に関する秘密は厳守します。安心してご相談ください。

相談は無料です。



窓口開設時間

月曜日～土曜日 午前8時30分～午後5時
(日曜・祝日・12月29日～1月3日はお休みします)



世田谷区



認知症
ケアパス



認知症



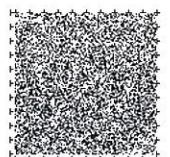
あんしん



ガイドブック



世田谷区



平成 30 年度 第 3 回家庭教育学級を終えて

秋も一段と深まり、朝夕の寒さが身にしみる季節となりました。

さて、11月10日に学校とPTA家庭教育学級との共催にて第3回家庭教育学級講演会「認知症サポーター養成講座」～認知症を学び地域で支えよう～が開催されました。

講師には等々力あんしんすこやかセンター主任介護支援専門員の鶴若暢久様、社会福祉士の滝口啓太様をお招きし、「認知症の理解」、「認知症の方と接する心構え及び基本姿勢」、「認知症の方を地域で支える視点を学ぶ」をテーマにご講演いただきましたのでご報告いたします。



講演会では、はじめに尾山台中学校の通学地域（等々力1～8、尾山台1～3、玉堤1～2、野毛1～2丁目）の総人口35,100人に対して65歳以上の高齢者が6,792人、高齢化率は19.35%（東京都は22.6%、日本全国では27.8%）である、というお話をお聞きしました。また高齢者の7人に1人が認知症を有しているといわれており、通学地域内に970人の認知症の方がいると推定されるそうです。身近な地域にこれだけ多くの認知症の方がいることを知り、会場では驚きの声が上がりました。

続いて、認知症を引き起こすアルツハイマー病などの疾患について、また認知症の方に対しての声かけや接し方の良い例と悪い例をガイドブックと映像を通して学びました。

超高齢化社会を迎える日本において「認知症」は特別な病気ではなく、年齢を重ねれば誰しもが起こりうる身近な病気として考えなければいけない問題だと感じました。そばで見守り声を掛ける人がいれば、認知症の方でも出来ることが沢山あり、自尊心を傷つけない等の対応の基本姿勢を心得ることの大切さがわかりました。

今回は約40名の保護者、先生方にご参加いただきました。また、参加者からの質問にも快くお答えくださり、認知症セルフチェックリストがあること等を教えていただきました。講演会の最後には認知症サポーターの証であるオレンジリングが配布されました。

《参加されたみなさまの感想》

- ・ 今まで認知症について考えたことがなかったので良い機会になりました。
- ・ 認知症の方への対応方法がわかったので、これからはサポーターとして協力していきたいです。
- ・ 中学生の子を持つ親にとっては親世代、中学生にとっては祖父母世代に関わるタイムリーな講演だと思いました。
- ・ 両親が高齢になり、いつおこるか分からない認知症に不安がありましたが、認知症にも色々なパターンの症状があることを知りました。
- ・ 義父母と同居しているので、実際に直面する前にどんな心構えでいたらいいのか勉強になりました。
- ・ 「認知症だから」ではなく、人として接して、相手に寄り添う事の大切さを子どもにも話したいと思いました。